

平成17年度

小学校・中学校学力調査報告書

宮崎県教育研修センター

はじめに

平成17年4月、文部科学省による「平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査」の概要が文部科学省から公表され、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の実現状況、教育課程や指導方法等の改善について、今後の指針が示されました。また、平成19年度から、全国的な学力調査が実施される予定となり、なお一層、学力向上に対する関心が高まっております。

本県においても、「宮崎の教育創造プラン」の具現化のため、平成17年度から「明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト」に取り組み、その一つとして学力向上対策の推進を掲げています。特に今年度は、全国規模の学力調査が実施され、学力向上サポーターの配置や教員の指導力を高める授業研究会等が行われています。

宮崎県教育研修センターでは、基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指し、教育課程や指導方法の工夫・改善を図るための調査研究として、平成14年度から3年間にわたって「基礎学力調査」を実施してまいりました。さらに、調査分析結果を本センターのWeb上に掲載することで、学校教育関係者はもとより、数多くの方々に活用していただいているところです。

本報告書は、今年度実施された全国規模の学力調査の結果を基に、学習状況の分析・考察を行い、今後の指導上の留意点についてまとめたものです。各学校・関係諸機関におかれましては、この資料を十分に御活用いただきますとともに、今後の学習指導方法の工夫・改善に役立てていただきたいと思います。

最後に、本調査の実施・分析等に際し、御協力いただきました県内の小学校・中学校及び関係諸機関に対しまして心より御礼申し上げます。

平成17年12月

宮崎県教育研修センター

所 長 前 田 博

目 次

I 平成17年度小学校・中学校学力調査概要

1	結果分析の趣旨	2
2	実施概要	2
(1)	実施日時	2
(2)	調査対象校	2
(3)	調査学年・教科	2
3	各教科平均点	2
(1)	小学校第5学年	2
(2)	中学校第2学年	2
(3)	教育事務所別	3
4	全体概要	4
(1)	学力調査	4
(2)	意識調査	4

II 各教科の分析結果

1	小学校第5学年	
(1)	国語	5
(2)	社会	8
(3)	算数	11
(4)	理科	14
2	中学校第2学年	
(1)	国語	17
(2)	社会	20
(3)	数学	23
(4)	理科	26
(5)	英語	29

III 意識調査分析結果

32

IV 優秀実践校及び学力向上サポーター配置校の選定結果

1	優秀実践校	36
2	学力向上サポーター配置校	37

I 平成17年度小学校・中学校学力調査概要

1 結果分析の趣旨

小学校・中学校における全国的にみた学力の実態を把握・分析するとともに、学習指導上の課題を明らかにし、今後の教育課程の編成・実施及び指導方法の工夫・改善を図るため、本報告書を作成した。

2 実施概要

- (1) 実施日時 平成17年5月10日（火）、11日（水）
- (2) 調査対象校 市町村立小学校265校、中学校138校
（小学校10校、中学校2校は対象児童生徒なし）
五ヶ瀬中等教育学校（前期課程）
宮崎大学教育文化学部附属小・中学校
- (3) 調査学年・教科 小学校第5学年 国語，社会，算数，理科，意識調査
中学校第2学年 国語，社会，数学，理科，英語，意識調査

3 各教科平均点

(1) 小学校第5学年

各教科		全 国	宮 崎 県	差
平均 点	国語	72.1	75.0	2.9
	社会	70.4	72.6	2.2
	算数	74.0	75.7	1.7
	理科	65.5	65.3	-0.2

(2) 中学校第2学年

各教科		全 国	宮 崎 県	差
平均 点	国語	77.8	80.6	2.8
	社会	59.9	60.6	0.7
	数学	63.0	67.8	4.8
	理科	65.0	66.5	1.5
	英語	73.5	75.7	2.2

(3) 教育事務所別

① 小学校第5学年

教科	教育事務所	平均点
国語	宮 崎	76.5
	南那珂	74.9
	北諸県	73.8
	西諸県	72.8
	児 湯	76.7
	東臼杵	72.5
	西臼杵	78.3
	県	75.0
社会	宮 崎	74.5
	南那珂	71.1
	北諸県	71.6
	西諸県	70.2
	児 湯	71.8
	東臼杵	70.8
	西臼杵	73.2
	県	72.6
算数	宮 崎	77.0
	南那珂	74.8
	北諸県	75.4
	西諸県	73.8
	児 湯	75.3
	東臼杵	74.0
	西臼杵	76.1
	県	75.7
理科	宮 崎	66.3
	南那珂	65.9
	北諸県	65.0
	西諸県	64.7
	児 湯	64.4
	東臼杵	63.4
	西臼杵	67.3
	県	65.3
計	宮 崎	73.6
	南那珂	71.7
	北諸県	71.5
	西諸県	70.4
	児 湯	72.1
	東臼杵	70.2
	西臼杵	73.7
	県	72.2

② 中学校第2学年

教科	教育事務所	平均点
国語	宮 崎	82.8
	南那珂	78.3
	北諸県	80.4
	西諸県	79.1
	児 湯	81.0
	東臼杵	77.4
	西臼杵	79.7
	県	80.6
社会	宮 崎	64.4
	南那珂	56.8
	北諸県	59.6
	西諸県	57.2
	児 湯	58.6
	東臼杵	57.2
	西臼杵	62.5
	県	60.6
数学	宮 崎	71.7
	南那珂	63.6
	北諸県	66.9
	西諸県	66.7
	児 湯	66.2
	東臼杵	63.4
	西臼杵	66.2
	県	67.8
理科	宮 崎	69.2
	南那珂	62.6
	北諸県	65.9
	西諸県	64.6
	児 湯	66.3
	東臼杵	63.2
	西臼杵	65.0
	県	66.5
英語	宮 崎	79.7
	南那珂	72.4
	北諸県	74.6
	西諸県	70.5
	児 湯	75.0
	東臼杵	72.2
	西臼杵	76.5
	県	75.7
計	宮 崎	73.6
	南那珂	66.7
	北諸県	69.5
	西諸県	67.6
	児 湯	69.4
	東臼杵	66.7
	西臼杵	70.0
	県	70.2

4 全体概要

(1) 学力調査

- 宮崎県と全国の平均点を比較すると、小学校理科の平均が全国よりわずかに低かったものの、小学校の他の3教科、中学校のすべての教科は全国平均を上回った。特に、中学校数学では全国平均を4.8ポイント上回っている。
- 設問別(全国の*共通問題)でみると、小学校では88問中55問(62.5%)、中学校では134問中119問(88.8%)が全国平均より高かった。しかし、それぞれの教科において正答率が全国平均より低い設問もあり、今後、指導の工夫・改善を図っていく必要がある。
- 関心・意欲・態度に関する設問については、肯定的に回答した児童生徒の割合が全教科とも全国平均の割合より高かった。
※小学校社会科は宮崎県独自の問題があるため

(2) 意識調査

小学校115項目、中学校119項目で調査を行った。調査内容としては、学習する上での基盤となる項目と生きる力の項目で構成されている。結果は、小学校では73.0%、中学校では86.6%の項目で、全国平均の割合より高い結果が出た。
以下は全国との比較、学力との相関関係から特徴的なことをあげたものである。

〔全国との比較〕

- 新しく習ったことを何度も練習したり、復習したりする等の「自ら学ぶ力」のほとんどの項目については、小・中学校ともに全国平均の割合より高い。
- 目標に向けてコツコツ学習することや、分かるまで努力すること等の「学ぶ姿勢」のほとんどの項目については、小・中学校ともに全国平均の割合より高い。
- 調べたことをまとめたり、筋道を立てて考えたりする等の「生きる力」については、すべての項目で全国平均の割合より高い。
- 家族と話したり、手伝いをしたり等の「家庭での指導や活動」に関しては、小学校段階ではほとんどの項目が全国平均の割合より低い。中学校段階ではほとんどの項目が全国平均の割合より高い。
- 小・中学校ともほとんどの教科で好きと回答した児童生徒の割合が全国平均の割合より高い。理解度も同様である。

〔学力との相関関係〕

- 朝食を食べることや起床、就寝時間等の規則正しい生活習慣と学力との間には相関が認められる。
- 本や新聞を読んだりすることと学力との間には相関が認められる。
- 自分を理解してくれる友だちや気にかけてくれる家族、認めてくれる教師の存在と学力との間には相関が認められる。
- まちがえたところをやり直したり、単に学習内容を暗記するのではなく理由や考え方も含めて理解したりしていくことと学力との間には相関が認められる。特に、中学校段階では強い。
- 「生きる力」と学力には強い相関が認められる。
- 責任感をもつことや他の意見を尊重することと学力との間には相関が認められる。
- 他の教科と比べると、小学校の算数、中学校の数学と英語において、好き嫌いの情意面と学力との間には強い相関が認められる。
- 学習塾と学力の関係については、中学校段階では相関が強くなってきている。

Ⅱ 各教科の分析結果

1 小学校第5学年

(1) 国語

① 概要

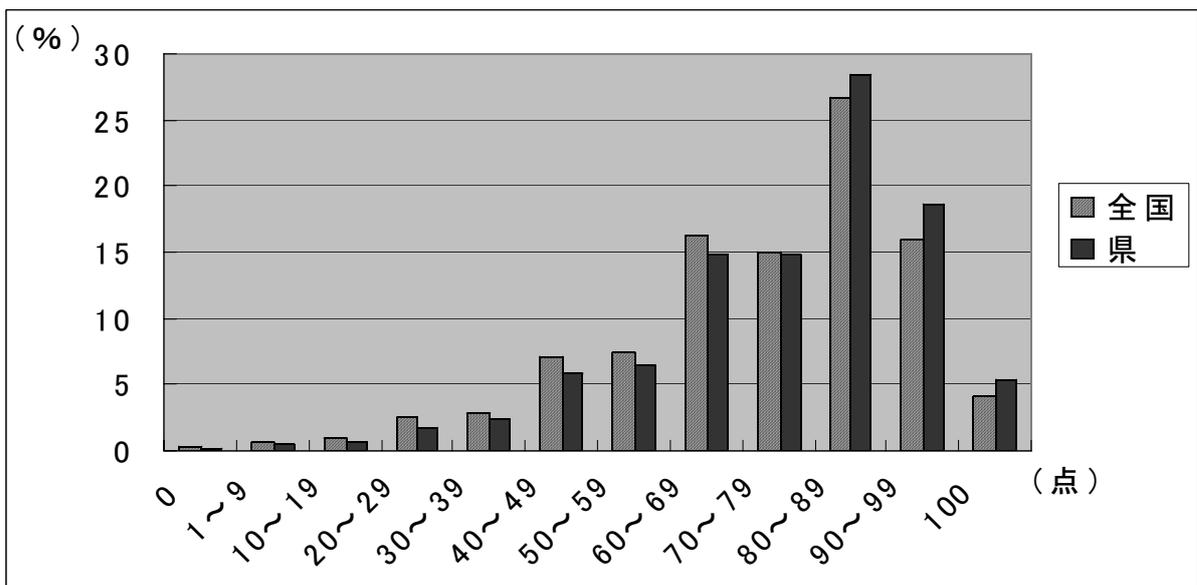
「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の領域は全国平均よりやや高く、「読むこと」の領域は全国平均とほぼ同じである。漢字や文法などの「言語事項」は全国平均より高い。「書くこと」と「言語事項」は基礎・基本が確実に定着してきている。また、教科に関する関心・意欲・態度も全国平均よりやや高い。

小問別にみると、「読むこと」に関して、説明的文章と文学的文章のいずれにおいても、要旨や主題の把握が課題である。今後は、文章全体を見通して要旨や主題を的確に把握し、簡潔にまとめていく力を育てる授業の展開が必要である。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	72.1	75.0	2.9
	基礎	74.0	76.7	2.7
	応用	66.1	69.7	3.6
観 点 別	話す力・聞く力	79.7	82.4	2.7
	書く力	67.8	71.2	3.4
	読む力	69.5	70.8	1.3
	言語についての知識・理解・技能	72.4	76.7	4.3
領 域 別	音声言語	79.7	82.4	2.7
	説明的文章	76.4	77.7	1.3
	文学的文章	62.6	63.8	1.2
	言語事項	72.4	76.7	4.3

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	話の内容の聞き取り	話す・聞く	音声言語	85.5	87.1	1.6
	2	話の内容の聞き取り	話す・聞く	音声言語	82.2	82.8	0.6
	3	質問の仕方の理解	話す・聞く	音声言語	71.6	77.4	5.8
2	1	文脈に即した内容の理解①②	読む	説明的文章	76.5	76.7	0.2
	2	文脈に即した内容の理解	読む	説明的文章	84.5	84.9	0.4
	3	理由の記述	書く, 読む	説明的文章	79.5	80.3	0.8
	4	文脈に即した内容の理解	読む	説明的文章	65.1	65.1	0.0
	5	文章を踏まえた意見の記述	書く, 読む	説明的文章	76.4	81.7	5.3
3	1	比喻表現の理解	読む	文学的文章	55.0	55.3	0.3
	2	人物の心情の理解	読む	文学的文章	74.2	74.2	0.0
	3	文脈に即した内容の理解	読む	文学的文章	70.6	71.4	0.8
	4	文脈に即した内容の理解と記述	書く, 読む	文学的文章	60.8	62.1	1.3
	5	文章を踏まえた短作文	書く, 読む	文学的文章	52.7	56.3	3.6
4	1	漢字の読み	言語	言語事項	94.8	96.2	1.4
	2	漢字の読み	言語	言語事項	95.5	97.1	1.6
	3	漢字の読み	言語	言語事項	93.8	95.7	1.9
5	1	漢字の書き	言語	言語事項	72.5	85.3	12.8
	2	漢字の書き	言語	言語事項	80.6	82.7	2.1
	3	漢字の書き	言語	言語事項	69.2	68.4	-0.8
6	1	1 主語述語 (主語)	言語	言語事項	58.8	65.8	7.0
		2 主語述語 (述語)	言語	言語事項	45.7	56.7	11.0
	2	文の形	言語	言語事項	54.9	54.8	-0.1
7		丁寧語	言語	言語事項	78.8	82.3	3.5
8		ローマ字	言語	言語事項	54.4	59.5	5.1
9		指示された言葉を用いた短文記述	書く, 言語	言語事項	69.7	75.7	6.0

※「観点別」の「言語」……「言語についての知識・理解・技能」

⑤ 領域ごとの考察

ア 音声言語

すべての小問で全国平均を上回っており、領域全体では2.7ポイント上回っている。特に、聞き取った内容をさらに深めて質問した内容を記述する小問3は、全国平均よりも5.8ポイント高かった。しかし、話の内容を把握する小問1及び2はほぼ全国平均にとどまっている。

そこで、指導に当たっては、聞くこと的能力を平常の授業においてさらに育てていくために、主語・述語を意識して内容を的確に把握したり、話の要点を簡潔にまとめたりするような活動を取り入れることが大切である。

イ 説明的文章

ほとんどの小問で全国平均を上回っており、領域全体では1.3ポイント上回っている。特に、文章の内容を踏まえて自分の考えを記述する問題では全国平均を5.3ポイント上回っている。しかし、文章の内容を正確に把握して答える問題の通過率は65.1ポイントにとどまっている。

そこで、指導に当たっては、文章の内容を展開に即して的確に把握する力を育成するために、主語・述語の関係に気を付けて内容を読み取ったり、文章の要点を的確にとらえて簡潔にまとめたりするような授業を継続していくことが必要である。また、自分の考えを記述する場合、書くべき内容を精選し、一文をできるだけ短く書いていく力を育てるような活動の展開が大切である。

ウ 文学的文章

ほとんどの小問で全国平均を上回っており、領域全体では1.2ポイント上回っている。特に、文章の内容を踏まえて自分の考えを記述する問題では全国平均を3.6ポイント上回っている。しかし、無解答率が10.2%であり、比喩表現や文章の内容を踏まえた短文作成の問題の通過率は55.3～56.3ポイントにとどまっている。

そこで、指導に当たっては、文章の内容を把握し自分の考えをもつ力を育成するために、比喩などの表現技法に注目したり、登場人物の言動から心情を読み取ったりする力を高めるような授業を展開していく必要がある。

エ 言語事項

ほとんどの小問で全国平均を上回っており、領域全体では4.3ポイント上回っている。しかし、主語・述語を答える問題では、2問の平均通過率が全国平均を9.0ポイント上回っているものの、その平均通過率は61.3ポイントにとどまっている。また、ローマ字の問題は無解答率が22.3%、短文作成の問題は無解答率が13.2%である。

そこで、指導に当たっては、文章の読解においては主語と述語を意識した読み取りを行ったり、書く活動においては主語・述語の関係に注意して的確に書くような活動を行ったりするなど、領域を関連付けた活動を計画的に位置付けていくことが重要である。

(2) 社会

① 概要

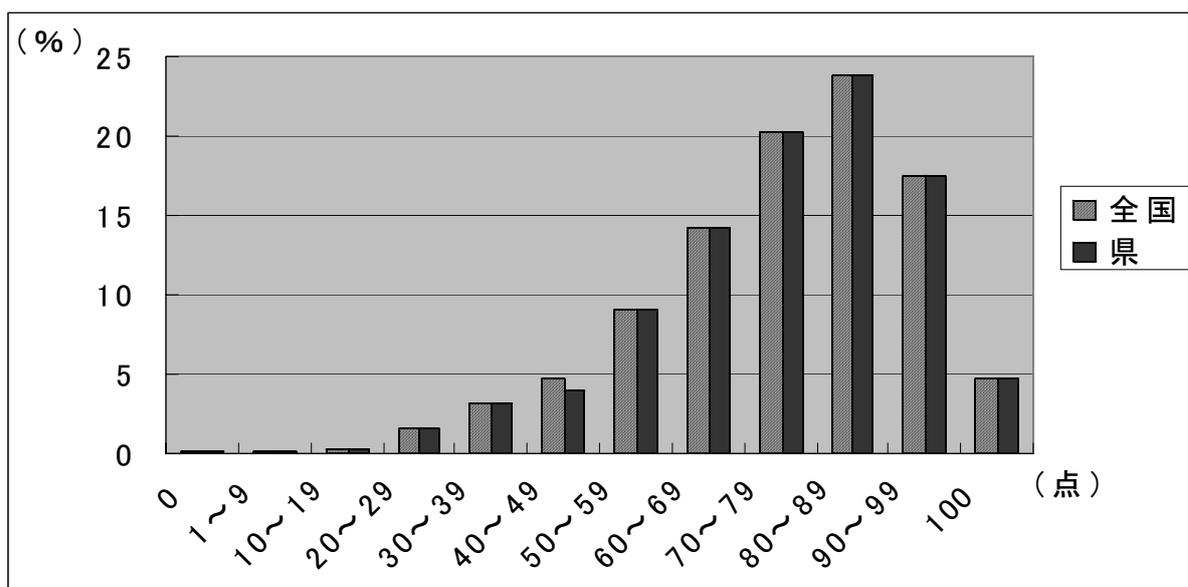
一部の内容については全国平均より低いところもみられるが、教科全体としては全国平均よりも高い。特に、社会的な思考・判断は高い結果が出ており、関心・意欲・態度も全国平均より高く、概ね満足できる結果である。しかし、棒グラフの読み取りなど資料活用の技能・表現は全国平均よりも低い。

「都道府県の様子」が全国平均よりも低いことから、今後は、自分の住んでいる市町村や本県の特色について、学習の中で地図帳を積極的に活用したり、グラフや図から読み取らせる機会を多く設けたりすることによって、理解力、表現力を育てる指導が必要である。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	70.4	72.6	2.2
	基礎	70.8	71.4	0.6
	応用	68.0	77.5	9.5
観 点 別	社会的な思考・判断	63.5	76.8	13.3
	観察・資料活用の技能・表現	71.9	71.0	-0.9
	社会的事象についての知識・理解	72.4	73.7	1.3
領 域 別	地域の人々の生活を支えるもの	69.6	73.5	3.9
	地域の人々の生活の移り変わり	85.1	84.1	-1.0
	都道府県の様子	65.0	60.9	-4.1

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差	
1	1	調査方法の判断	思考・判断 知識・理解	生活を支えるもの	64.5	75.3	10.8	
	2	浄水場の仕組み	技能・表現	生活を支えるもの	82.7	77.6	-5.1	
	3	下水処理の仕組み	知識・理解	生活を支えるもの	55.7	45.7	-10.0	
2	1	棒グラフの読み取り	技能・表現	生活を支えるもの	60.0	48.5	-11.5	
	2	水を守る工夫	思考・判断	生活を支えるもの	55.4	67.1	11.7	
	3	水の確保	知識・理解	生活を支えるもの	96.2	93.0	-3.2	
	4	節水の工夫	思考・判断	生活を支えるもの	80.0	76.0	-4.0	
3	1	ごみ処理の方法	思考・判断 技能・表現	生活を支えるもの	91.3	91.1	-0.2	
	2	ごみ処理の作業内容の流れ	知識・理解	生活を支えるもの	74.3	74.6	0.3	
	3	①	資源ごみの処理方法	技能・表現 知識・理解	生活を支えるもの	73.8	75.5	1.7
		②	リサイクルセンターの仕事	知識・理解	生活を支えるもの	79.6	86.0	6.4
4	1	ごみの始末の移り変わりとその背景	思考・判断 技能・表現	生活を支えるもの	58.8	61.0	2.2	
	2	ごみを減らす工夫	思考・判断	生活の移り変わり	82.1	84.2	2.1	
5	1	博物館の利用方法	知識・理解	生活の移り変わり	88.9	82.9	-6.0	
	2	昔の道具と今の道具の特徴	技能・表現	生活の移り変わり	83.8	86.9	3.1	
	3	道具の年表の読み取り	思考・判断 技能・表現	生活の移り変わり	82.5	82.6	0.1	
6	1	宮崎県の土地の様子	技能・表現	県の様子	独自問題	69.6		
	2	宮崎県の土地の様子	知識・理解	県の様子	独自問題	44.0		
	3	宮崎県の人々の暮らし	知識・理解	県の様子	独自問題	57.0		
	4	宮崎県と関係の深い国	技能・表現 知識・理解	県の様子	独自問題	72.8		

⑤ 領域ごとの考察

ア 地域の人々の生活を支えるもの

「調査方法の判断」、「水を守る工夫」、「リサイクルセンターの仕事」についての小問は、全国平均より高かった。一方、大問1～3においては、11問中6問が全国平均より低く、特に「下水処理の仕組み」、「棒グラフの読み取り」は全国平均より10ポイント低かった。

そこで、指導に当たっては、飲料水や下水について扱う際には、水道工事に携わる人々などから話を聞いたり、浄水場の施設を見学したりするなど、水が作られ、消費地に供給されるまでを具体的に調べる活動を展開する必要がある。このような活動を通して、水がいろいろな施設や人々の働きに支えられて確保されていることや、節水が資源の節約になることについて考えるようにすることが大切である。また、日常の指導の場面において、資料の読み取りをさせる機会をできるだけ多くつくるのが大切である。その際、資料から何が分かるかということについて、自分のことばで説明させるなどして、資料の読み取りに慣れさせるように指導する必要がある。

イ 地域の人々の生活の移り変わり

この領域では「博物館の利用方法」についての小問の通過率が低く、他はほぼ全国平均と同じであった。

そこで、指導に当たっては、地域の博物館や郷土資料館などにある昔の道具を見学したり、高齢者から話を聞いたりして、人々の生活の変化を考える手掛かりとなる見学や調べる活動などを積極的に取り入れる必要がある。その際、博物館などの施設の利用方法についても指導する必要がある。

ウ 都道府県の様子

宮崎県の地形、暮らし、外国との関係についての出題であった。地図から宮崎県の地形の特色を読み取る力や、外国との関わりについての知識は概ね身に付いているが、地図中に示された縮尺を基に実際の距離を求める問題は通過率が低かった。

そこで、指導に当たっては、県内の特色ある地域に関する資料を収集し、有効に活用したり、白地図にまとめたりして、県の特色を考えさせることが大切である。その際、地図を繰り返し活用し、縮尺、地図記号、方位の見方など基礎的・基本的な事項の定着を図る必要がある。

(3) 算数

① 概要

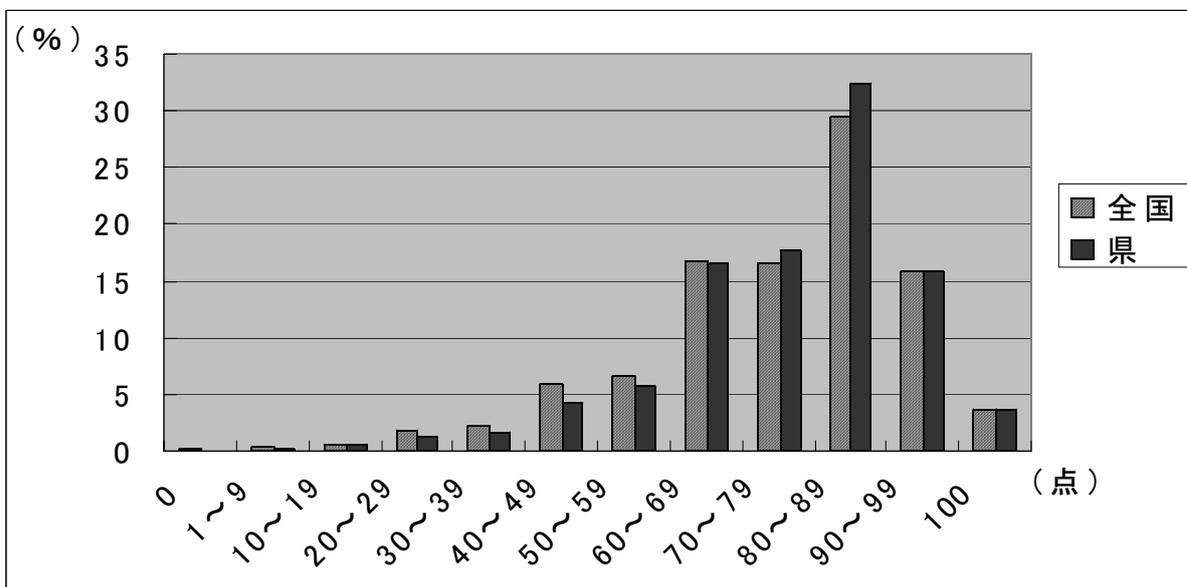
教科全体、各領域ともに全国平均とほぼ同じである。また、関心・意欲・態度については全国平均より高く、特に、計算の練習を繰り返し行っていく姿勢が身に付いている。その結果、「数と計算」領域では、基礎・基本の定着が図られている。小問別では、「伴って変わる数量の関係を式で表す」が特に低い結果であった。

今後は、実際に作業や体験する活動を通して、多面的なものの見方や考える力を伸ばし、児童自らが数量や図形についての関係やきまりを発見したり理解したりして、その意味を実感できるように指導していく必要がある。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	74.0	75.7	1.7
	基礎	77.7	79.4	1.7
	応用	59.1	60.7	1.6
観 点 別	数学的な考え方	59.1	60.7	1.6
	数量や図形についての表現・処理	73.9	75.8	1.9
	数量や図形についての知識・理解	74.2	75.5	1.3
領 域 別	数と計算	81.2	82.9	1.7
	量と測定	80.2	81.7	1.5
	図形	59.1	60.5	1.4
	数量関係	66.7	68.4	1.7

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	小数の加法	表現処理	数と計算	95.3	95.5	0.2
	2	小数の減法	表現処理	数と計算	60.9	58.4	-2.5
	3	3位数÷1位数の計算	表現処理	数と計算	86.7	88.2	1.5
	4	3位数÷2位数の計算	表現処理	数と計算	79.6	80.2	0.6
	5	四則の混合した計算	表現処理	数量関係	56.8	67.1	10.3
2	1	四捨五入	表現処理	数と計算	78.0	84.9	6.9
	2	十進位取り記数法と数直線	知識理解	数と計算	85.4	82.6	-2.8
	3	小数を相対的にとらえる	知識理解	数と計算	94.5	96.2	1.7
	4	小数の大小	知識理解	数と計算	97.5	97.9	0.4
	5	分数の大小	知識理解	数と計算	64.7	68.8	4.1
3	1	1回転の角度	知識理解	量と測定	86.4	87.9	1.5
	2	分度器の目盛りの読み取り	知識理解	量と測定	84.2	88.9	4.7
	3	長方形の面積	表現処理	量と測定	94.7	96.1	1.4
4	1	円の構成要素	知識理解	図形	78.2	86.2	8.0
	2	二等辺三角形の性質	知識理解	図形	55.4	53.1	-2.3
	3	正三角形の作図	表現処理	図形	81.8	85.3	3.5
5	1	折れ線グラフの目盛りの読み取り	表現処理	数量関係	63.0	62.8	-0.2
	2	折れ線グラフの変化の様子	表現処理	数量関係	80.3	82.2	1.9
	3	伴って変わる数量の関係を式で表す	表現処理	数量関係	71.5	62.5	-9.0
	4	数量の関係を式で表す	表現処理	数量関係	59.7	63.2	3.5
6	1	文章題：小数＋小数の計算	考え方 表現処理	数と計算	91.8	93.5	1.7
	2	文章題：2位数÷1位数の計算	考え方 表現処理	数と計算	58.5	65.8	7.3
	3	複雑な図形の面積	考え方 表現処理	量と測定	55.4	53.8	-1.6
	4	文章題：四則の混合した計算	考え方 表現処理	数量関係	68.7	72.6	3.9
	5	円・長方形の性質と図形の周の長さ	考え方 知識理解	図形	21.1	17.6	-3.5

⑤ 領域ごとの考察

ア 数と計算

ほとんどの小問で全国平均を上回っている。また、昨年度の類似問題との比較において、通過率が上回っており、「数と計算」領域における基礎・基本の定着が図られている。しかし、十進位取り記数法と数直線、繰り下がりのある小数の減法が全国平均より低くなっている。

そこで、指導に当たっては、億や兆の単位の導入については、新聞や資料集等から具体的な場面を取り上げ、生活との関連を図りながら数の大きさのイメージをつかませていくことが大切である。小数の加法・減法については、整数の計算と対比させながら理解させるとともに、小数点を必ずそろえ、位を意識しながら計算できるように丁寧に指導する必要がある。また、概数によって答えの見通しをもたせることも大切である。計算については、小テストによる実態把握と個別指導の時間を充実させるとともに、継続した指導が重要である。

イ 量と測定

ほとんどの小問がほぼ全国平均と同じであるが、昨年度の類似問題との比較において、通過率が上回ってきており、定着が図られてきている。しかし、複雑な図形の面積については、昨年度の類似問題と同様、通過率が低く、無解答率は5%である。

そこで、指導に当たっては、補助線で分割し、見慣れた図形にどのように帰着させていくかがポイントである。そのためには、実際に図形を作ったり、切ったり、コンピュータでシミュレーションしたりするなどの算数的活動を通して、図形についての豊かな感覚を養っていくことが大切である。また、このような活動を通して、多面的なものの見方や考え方を養うとともに、興味・関心を高め、児童が主体的に問題解決していく姿勢を育成することも重要である。

ウ 図形

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じであるが、二等辺三角形の性質や円・長方形の性質についての小問の通過率が低い結果である。

そこで、指導に当たっては、「量と測定」と同様、実際に図形を作って、違う角度から調べたり、具体物を観察したり、比べたりする活動を通して、児童自らが図形の性質を発見したり、活用したりできるようにしていくことが大切である。また、このような算数的活動から、図形についての見方や感覚を豊かにしていくことも重要である。

エ 数量関係

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じであるが、伴って変わる数量の関係を式で表す小問が、昨年度の類似問題と同様、通過率が低く、無解答率は5%である。また、四則の混合した計算が昨年度の類似問題の通過率より低くなっている。

そこで、指導に当たっては、四則の混合した計算については、どの段階でつまづいているのかを把握し、計算順序の約束事を再度確認していくことが大切である。グラフや数量の関係を式で表すことについては、具体的な場面に対応させながら、図、表、グラフ及び式の関連をとらえさせていくことが重要である。そして、そのような活動を通して、言葉の式で表すことのよさに気付かせていくことが大切である。また、数量の関係を式で表したり、その式をよんだり用いたりすることが十分に理解できていない児童がいることから、個に応じた指導の充実を図っていく必要もある。

(4) 理科

① 概要

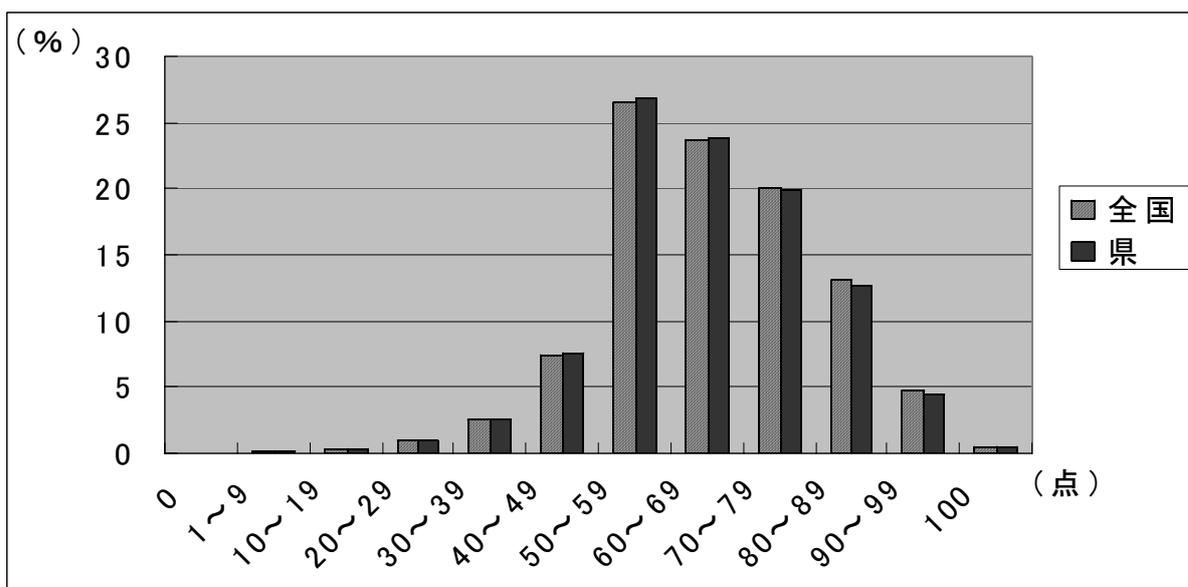
全国平均より若干低い領域がみられるものの、教科全体、各領域ともに全国平均とほぼ同じ状況である。小問別にみると「乾電池のつなぎ方」、「空気と水の性質の違い」、「水の状態と体積の変化」、「水の対流」の内容では、全国平均より低い状況がみられた。また、理科に関する関心・意欲・態度については、全国平均とほぼ同じ状況である。

今後は、目的意識をもった観察・実験を一層重視し、自然事象についての知識・理解を深めるとともに、科学的な思考を深める指導の充実が求められる。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	65.5	65.3	-0.2
	基礎	69.7	69.5	-0.2
	応用	54.5	54.0	-0.5
観 点 別	科学的な思考	48.6	48.2	-0.4
	観察・実験の技能・表現	59.5	59.1	-0.4
	自然事象についての知識・理解	75.1	75.0	-0.1
領 域 別	生物とその環境	78.4	78.4	0.0
	物質とエネルギー	64.8	64.3	-0.5
	地球と宇宙	56.1	56.0	-0.1

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	温度計の使い方	技能・表現	生物と環境	46.9	46.9	0.0
	2	ヘチマの種のまき方	知識・理解	生物と環境	78.2	78.3	0.1
	3	春の生き物	知識・理解	生物と環境	89.4	89.3	-0.1
2	1	電池の極	知識・理解	物質とエネルギー	96.2	96.1	-0.1
	2	乾電池のつなぎ方	科学的な思考	物質とエネルギー	44.7	43.9	-0.8
	3	乾電池のつなぎ方	技能・表現	物質とエネルギー	45.5	44.8	-0.7
3	1	星座早見の使い方	技能・表現	地球と宇宙	58.5	58.4	-0.1
	2	星座のなまえ	知識・理解	地球と宇宙	83.3	83.3	0.0
	3	星座の動き	知識・理解	地球と宇宙	41.7	42.2	0.5
4	1	昆虫の卵	知識・理解	生物と環境	97.8	97.8	0.0
	2	冬の生き物	科学的な思考	生物と環境	79.8	79.7	-0.1
5	1	空気てっぽう	技能・表現	物質とエネルギー	78.1	77.7	-0.4
	2	空気てっぽう	知識・理解	物質とエネルギー	83.7	83.2	-0.5
	3	空気と水の性質の違い	知識・理解	物質とエネルギー	87.1	87.0	-0.1
	4	空気と水の性質の違い	科学的な思考	物質とエネルギー	45.6	44.8	-0.8
6	1	水の対流	知識・理解	物質とエネルギー	18.7	18.1	-0.6
	2	金属の棒のあたたまり方	知識・理解	物質とエネルギー	90.6	90.3	-0.3
	3	ものの温度とかさ	知識・理解	物質とエネルギー	78.3	78.2	-0.1
	4	あたためられた空気	科学的な思考	物質とエネルギー	44.1	43.6	-0.5
7	1	水の沸騰	知識・理解	地球と宇宙	56.2	55.9	-0.3
	2	水の状態と体積の変化	技能・表現	地球と宇宙	68.4	67.7	-0.7
	3	水の変化	科学的な思考	地球と宇宙	28.9	28.7	-0.2

⑤ 領域ごとの考察

ア 生物とその環境

3領域の中で比較すると定着が図られていた領域であるが、「春の生き物」、「冬の生き物」などすべての小問で全国平均と同程度である。「温度計の使い方」に関する小問では、通過率は全国平均と同じではあるが、50%以下であり理解が十分な状況であるとは言えない。

そこで、指導に当たっては、身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と季節とのかかわりについて考えさせる必要がある。また、温度計の使い方については、目盛りのよみ方や測定場所の選び方について、様々な場や機会に繰り返し指導を行い、定着を図ることが必要である。

イ 物質とエネルギー

ほとんどの小問で、全国平均よりわずかに低い結果である。「水の対流」では通過率20%程度、「乾電池のつなぎ方」の作図の小問については、40%程度で低い結果である。全国平均との比較では、「空気と水の性質の違い」及び「あたためられた空気」の科学的な思考を問う記述式の小問で、通過率が低かった。

そこで、指導に当たっては、「水の対流」の理解を深めるために、実験による視覚的な理解を大切にしながら、実験後に水の対流の様子を図や絵で描かせ、定着を図るなどの指導を行うことが必要である。また、「乾電池のつなぎ方」に関しては、実際に回路を作らせてみて正しく作動したか、電池のつなぎ方の違いによってどのような違いがあるのか等の実験を通して、その結果を図に描かせながら理解させるとともに、日常生活体験と関連付けて捉えさせる指導が望まれる。

また、「空気と水の性質の違い」や「あたためられた空気」に関しては、空気と水の性質の違いや空気の熱に対する性質を利用した活動やものづくりを通して、それらの性質に興味・関心をもって追求する態度を育てるために、目的意識をもたせて観察・実験を行うことが大切である。さらに、その結果を児童に発表させたりまとめさせたりする活動の場を設定するなどして、科学的に思考する力や表現する力を高める指導を充実させる必要がある。

ウ 地球と宇宙

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じである。「水の変化」の科学的な思考を問う小問では無解答率が11.9%と高く、通過率が30%程度と低い。また、「星座の動き」についても、通過率40%程度で低い結果である。全国平均との比較では、「水の状態と体積の変化」の小問の通過率が低かった。

そこで、指導に当たっては、身の回りで、水たまりの水がなくなったり、洗濯物が乾いたりして、水の自然蒸発などが起こることや、沸騰した水の中から出る泡を集めて冷やすと水になる観察・実験などを通して、見えない水蒸気の存在を推論することができるように指導する必要がある。その際、必要に応じて教育用コンテンツなどのモデルを使って、児童が理解しやすいような指導の工夫も望まれる。また、「星座の動き」については、観察の機会をもったり、授業の中で図やモデルを積極的に活用したりするとともに、プラネタリウムなどの社会教育施設を積極的に活用し、天体に対する興味・関心をもつような指導も考えられる。

2 中学校第2学年

(1) 国語

① 概要

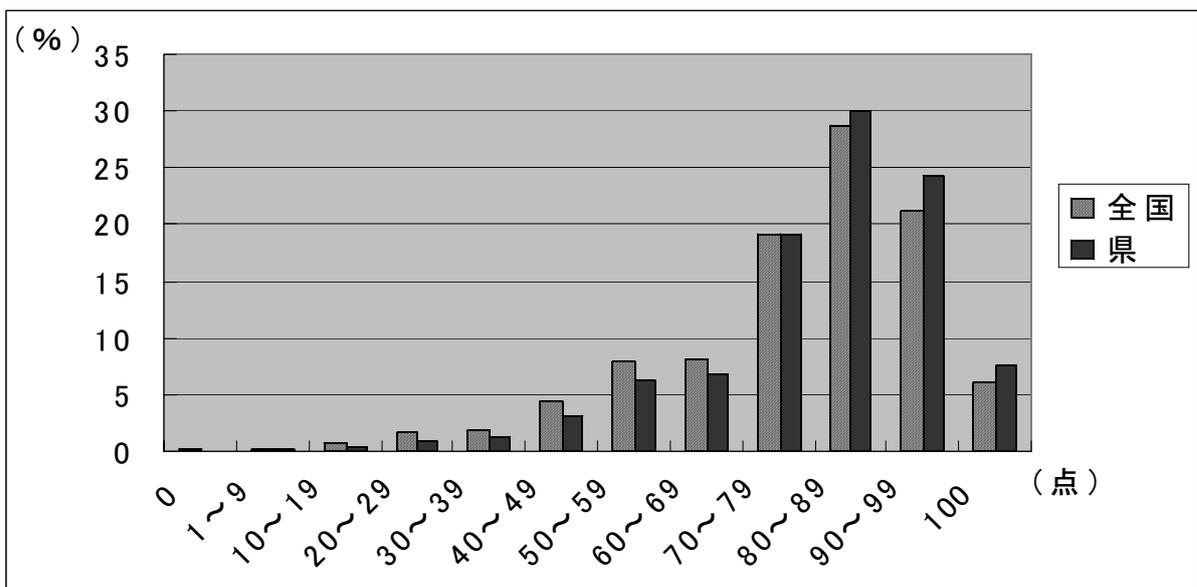
教科全体，各領域ともに全国平均よりやや高い。特に、「書くこと」は全国平均よりも5.1ポイント高い。また，関心・意欲・態度においても全国平均よりやや高く，概ね満足できる結果であった。

今後は，説明的文章においては，段落ごとの要点を的確に読み取りながら文章全体の要旨を把握させる指導，また，文学的文章においては，心情の変化を表現上の工夫と絡めて読み取らせる指導の充実が必要である。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	77.8	80.6	2.8
	基礎	80.5	83.4	2.9
	応用	71.4	74.1	2.7
観 点 別	話す力・聞く力	84.1	86.4	2.3
	書く力	69.1	74.2	5.1
	読む力	69.8	72.3	2.5
	言語についての知識・理解・技能	82.8	85.8	3.0
領 域 別	音声言語	84.1	86.4	2.3
	説明的文章	66.8	68.9	2.1
	文学的文章	72.8	75.7	2.9
	言語事項	82.2	85.3	3.1

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	話題の順序の聞き取り	話す・聞く	音声言語	89.1	90.7	1.6
	2	話し合いの内容の聞き取り	話す・聞く	音声言語	89.8	90.3	0.5
	3	話し合いの内容の聞き取り	話す・聞く	音声言語	73.5	78.3	4.8
2	1	漢字の読み	言語	言語事項	93.6	95.6	2.0
	2	漢字の読み	言語	言語事項	94.5	95.4	0.9
	3	漢字の読み	言語	言語事項	95.3	96.8	1.5
	4	漢字の読み	言語	言語事項	79.6	87.0	7.4
	5	漢字の書き	言語	言語事項	77.0	81.8	4.8
	6	漢字の書き	言語	言語事項	76.6	80.7	4.1
	7	漢字の書き	言語	言語事項	81.2	83.6	2.4
	8	漢字の書き	言語	言語事項	73.7	78.7	5.0
3	1	1 文節の区別	言語	言語事項	97.1	98.1	1.0
		2 主語の指摘・文節の区別	言語	言語事項	58.4	59.2	0.8
	2	1 文の成分	言語	言語事項	68.6	71.8	3.2
		2 文の成分	言語	言語事項	78.5	81.0	2.5
	3	1 部首	言語	言語事項	86.4	91.4	5.0
		2 部首	言語	言語事項	89.5	93.1	3.6
4	1	文脈に即した内容の理解	読む	説明的文章	56.6	57.3	0.7
	2	適切な接続詞の選択	読む・言語	説明的文章	92.4	93.3	0.9
	3	文脈に即した内容の理解と記述	書く・読む	説明的文章	44.8	48.7	3.9
	4	文脈に即した内容の理解	読む	説明的文章	54.2	53.7	-0.5
	5	主語に対する考えの記述	書く・読む	説明的文章	85.8	91.4	5.6
5	1	文脈に即した内容の理解	読む	文学的文章	72.4	74.3	1.9
	2	文脈に即した内容の理解	書く・読む	文学的文章	70.1	74.9	4.8
	3	人物の心情の理解	読む	文学的文章	73.4	73.9	0.5
	4	比喩表現の理解	読む	文学的文章	72.4	73.5	1.1
	5	人物への助言の記述	書く・読む	文学的文章	75.7	81.8	6.1

※「観点別」の「言語」……「言語についての知識・理解・技能」

⑤ 領域ごとの考察

ア 音声言語

すべての小問で全国平均を上回っており、領域全体では2.3ポイント上回っている。特に、話し合いの全体を把握しなければならない小問3は、4.8ポイント高かった。しかし、話の細部を尋ねた小問2は、全国平均との差がほとんどない。

そこで、指導に当たっては、平常の授業における「聞く」能力を育成するために、目的や場面に応じた話し方、聞き方の学習活動を取り入れ、要点を正確に聞き取ることに慣れさせることが大切である。また、聞きながらメモを取る練習をさせたりすることも大切である。

イ 説明的文章

小問4以外は、全国平均を上回っており、領域全体では2.1ポイント上回っている。特に、記述式では、小問3が3.9ポイント、小問5が5.6ポイント上回っている。しかし、選択式では、小問4の「文脈に即した内容の理解」が0.5ポイント低く、小問1と小問2は全国平均との差がほとんどない。

そこで、指導に当たっては、該当部分を的確に把握する力を育成するために、文章の中心の部分と付加的な部分を読み分けながら、文章の構成や展開が全体の中でどのような役割をしているかをとらえさせることが大切である。そして、文章中に繰り返し出てくる言葉に注意させ、対比して挙げられている事柄を分析しながら読ませることが必要である。

ウ 文学的文章

すべての小問で全国平均を上回っており、領域全体では2.9ポイント上回っている。特に、「人物への助言の記述」の通過率は全国に比べて高い。しかし、出題内容が同じ「文脈に即した内容の理解」であった小問1と小問2は、小問2が全国と比べて4.8ポイントも上回っているのに対して、小問1は1.9ポイントしか上回っていない。これは、小問2が直後を読めば解答が書けるのに対して、小問1は傍線部よりも前の文章全体を把握できなければ解答できないところから生じたものと考えられる。

そこで、指導に当たっては、登場人物の言動に注意しながら場面の展開を把握させることが必要である。また、作品を味わい深いものにしていく比喩・体言止め・倒置など、文章中の工夫された表現に注目して、作者独自の感覚や心情をつかませる指導が大切である。

エ 言語事項

すべての小問で全国平均を上回っており、領域全体では3.1ポイント上回り、他領域よりも高い。「言語事項」領域における、基礎・基本の定着が図られている。しかし、「文節の区別」と「主語の指摘・文節の区別」の小問二つは全国とあまり差がない。

そこで、指導に当たっては、文節や主語・述語の概念的理解を進めるため、文脈に応じた適切な使い方を考えさせたり、小テスト等を計画的に行ったりして、継続的に指導することが必要である。

(2) 社会

① 概要

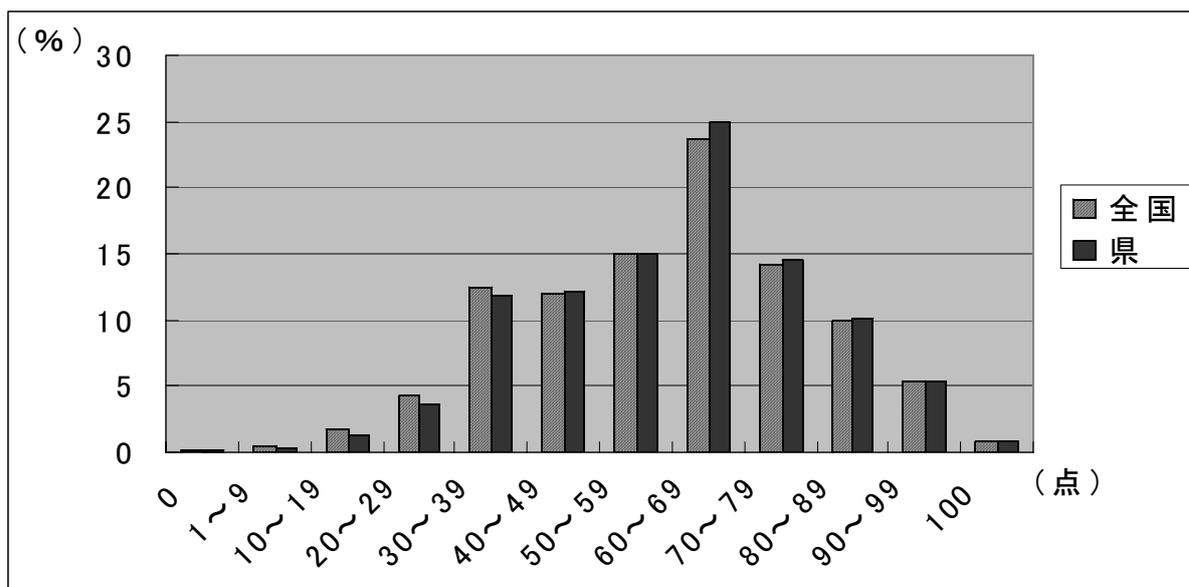
教科全体、各領域ともに全国平均とほぼ同じであるが、基礎的な内容が問われている「日本の地域構成」の領域では、正答した生徒の割合が全国平均よりわずかに低い結果がみられる。関心・意欲・態度も全国平均とほぼ同じ結果であった。

今後は、地球儀や地図を活用して、国土の位置や領域の特色を具体的にとらえたり、都道府県名や都道府県庁所在地の理解を深め、関心を一層高めたりする工夫が必要である。また、社会的な思考・判断を育成する場面などを授業の中で取り上げることも必要である。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	59.9	60.6	0.7
	基礎	60.6	61.6	1.0
	応用	58.1	58.4	0.3
観 点 別	社会的な思考・判断	64.2	64.6	0.4
	観察・資料活用 of 技能・表現	68.5	69.6	1.1
	社会的事象についての知識・理解	57.4	58.3	0.9
領 域 別	世界と日本の地域構成	55.3	55.5	0.2
	地域の規模に応じた調査	69.9	71.4	1.5
	歴史の流れと地域の歴史・古代までの日本	63.9	65.3	1.4
	中世の日本	55.2	55.8	0.6

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差	
1	1	海洋の分布	技能・表現 知識・理解	世界と日本の地域構成	75.5	76.9	1.4	
	2	大陸の分布	技能・表現 知識・理解		73.7	76.0	2.3	
	3	時差	技能・表現		49.8	49.9	0.1	
2	1	世界の国々のすがた	思考・判断 知識・理解		51.6	52.1	0.5	
	2	南アメリカのすがた	技能・表現 知識・理解		71.3	72.0	0.7	
3	1	日本の領域	知識・理解		43.2	42.4	-0.8	
	2	日本の経済水域	知識・理解		35.7	35.4	-0.3	
4	1	都道府県のすがた	知識・理解		35.2	33.6	-1.6	
	2	都道府県のすがた	知識・理解		61.5	61.2	-0.3	
5	1	地図記号	知識・理解		地域の規模に応じた調査	56.0	58.7	2.7
	2	グラフの作図	技能・表現	82.0		82.7	0.7	
	3	地域の変化の考察	思考・判断 技能・表現	71.7		72.7	1.0	
6		身近な地域の歴史を調べる	思考・判断 技能・表現	歴史の流れと地域の歴史・古代までの日本	81.3	81.9	0.6	
7	1	文明の起こり	知識・理解		88.6	92.1	3.5	
	2	大和朝廷の成立	知識・理解		53.7	55.3	1.6	
8	1	聖徳太子の国づくり	思考・判断 技能・表現 知識・理解		61.1	61.8	0.7	
	2	律令国家における農民の生活	知識・理解		46.0	46.7	0.7	
	3	藤原氏の政治	技能・表現 知識・理解		63.4	66.8	3.4	
	4	律令国家の変化	知識・理解		53.2	52.9	-0.3	
9	1	鎌倉幕府の成立	知識・理解		中世の日本	42.2	43.4	1.2
	2	武家と公家の関係	技能・表現 知識・理解			68.2	69.8	1.6
	3	人々の暮らしと信仰	思考・判断 技能・表現 知識・理解			55.1	54.8	-0.3
	4	元寇と鎌倉幕府	知識・理解	55.2		55.1	-0.1	

⑤ 領域ごとの考察

ア 世界と日本の地域構成

この領域は他の領域と比較すると、全国、宮崎県ともに通過率が低く、特に宮崎県の場合、すべての領域の中で最も低い結果である。基礎的な内容が問われている小問の通過率は高いが、応用の小問では通過率が低い結果になっている。また、「日本の地域構成」の領域でも、宮崎県はすべての小問で全国平均よりわずかに低くなっている。

そこで、指導に当たっては、地球儀や世界地図を活用し、緯度、経度や大陸のおよその位置関係など、地球表面の姿を大まかにとらえさせる必要がある。また、我が国の国土の位置や領域の特色を多面的・多角的にとらえさせ、都道府県名や都道府県庁所在地名の由来に触れるなどして、生徒の興味・関心を一層高めるなどの工夫が必要である。この領域が地理的分野の導入部分であり、世界と日本の地域構成の基本的な枠組みに関する学習として位置付けられていることから、別の領域と関連させて取り扱うことが大切である。

イ 地域の規模に応じた調査

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じであるが、小問別にみると、地図記号の小問の通過率が58.7%と低い結果が出ている。

そこで、指導に当たっては、観察や調査などの活動を通して、身近な地域に対する理解と関心を深めさせる必要がある。その際、縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活用の技能を高めることが大切である。

ウ 歴史の流れと地域の歴史・古代までの日本

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じである。「古代までの日本」では、国家が形成され、その仕組みが整えられていく過程や人々の生活に関する小問の通過率が、他の小問と比較すると低い結果である。

そこで、指導に当たっては、博物館や郷土資料館、史跡の見学・調査を取り入れて、生徒の興味・関心を高める工夫を行うことが大切である。また、それぞれの時代の特色や人々の生活の変化を一覧表にまとめるなどの作業的な学習によって、時代の特色を大きくとらえさせることも重要である。

エ 中世の日本

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じであるが、この領域は他の領域と比較すると、全国、宮崎県ともに通過率が低い。特に、「鎌倉幕府の成立」に関する基礎の小問の通過率は43.4%と低い結果である。この領域は政治や社会、文化の面でさまざまな変化がみられ、内容の定着を図る工夫が必要である。

そこで、指導に当たっては、歴史の流れを大きく理解させるための工夫として、前後の時代と比較させたり、時代の変化を示す絵や地図、文献などの歴史資料を活用したりするなど、生徒の興味・関心を高めながら、授業を展開していく必要がある。

(3) 数学

① 概要

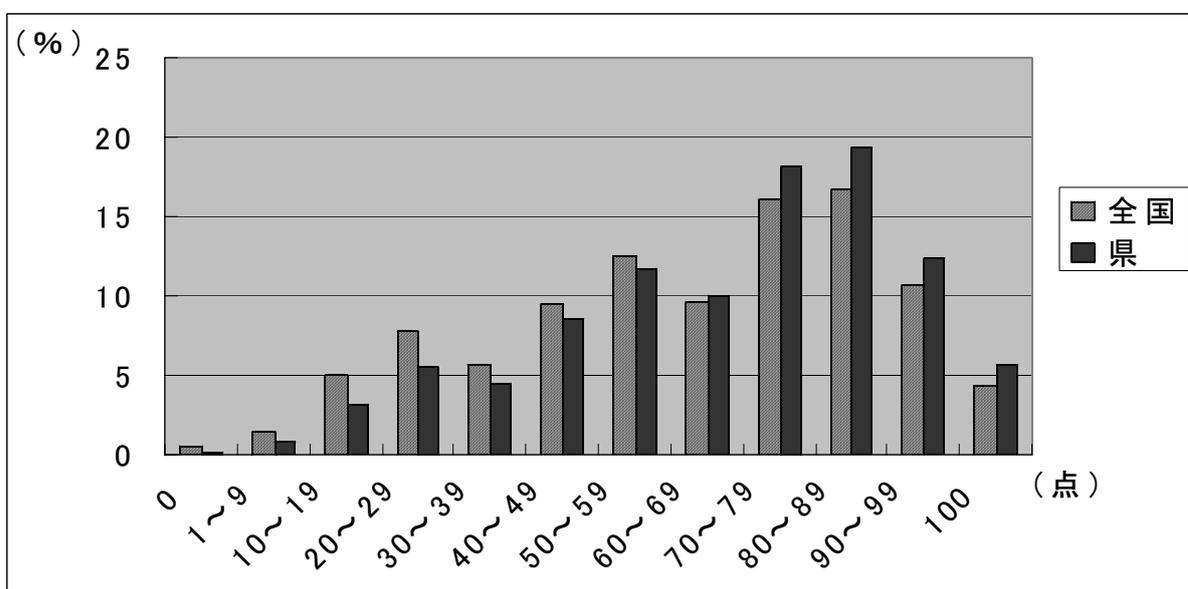
教科全体，各領域ともに全国平均より高い。「数と式」領域では非常に高いが，「図形」領域では，全国平均とほぼ同じである。関心・意欲・態度も全国平均より高く，概ね満足できる結果であった。

今後は，いろいろな角度から図形を見る習慣を身に付けさせるとともに，直観的な見方や考え方を深め，実生活と数学との関連を意識させることが必要である。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	63.0	67.8	4.8
	基礎	64.1	68.8	4.7
	応用	58.2	63.4	5.2
観 点 別	数学的な見方や考え方	58.2	63.4	5.2
	数学的な表現・処理	59.6	64.8	5.2
	数量，図形などについての知識・理解	68.2	72.2	4.0
領 域 別	数と式	63.1	69.9	6.8
	図形	69.9	70.6	0.7
	数量関係	56.0	60.1	4.1

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	絶対値の意味の理解	知識理解	数と式	64.2	70.8	6.6
	2	文字式における係数	知識理解	数と式	49.9	66.6	16.7
	3	等式の性質	知識理解	数と式	69.2	72.5	3.3
	4	文字式の表し方	知識理解	数と式	63.8	72.5	8.7
2	1	正の数・負の数の減法	表現処理	数と式	84.9	89.5	4.6
	2	累乗の計算	表現処理	数と式	63.9	68.8	4.9
	3	正の数・負の数の四則混合計算	表現処理	数と式	75.1	80.9	5.8
	4	一次式の減法	表現処理	数と式	63.2	71.8	8.6
	5	文字式への値の代入	表現処理	数と式	71.8	76.5	4.7
	6	一元一次方程式	表現処理	数と式	70.9	75.4	4.5
3	1	線対称な図形	知識理解	図形	75.6	72.7	-2.9
	2	円の構成要素	知識理解	図形	58.3	59.0	0.7
	3	垂直二等分線の作図方法	知識理解	図形	72.9	74.9	2.0
	4	点対称な図形	表現処理	図形	90.3	91.9	1.6
	5	正四角錐の体積	表現処理	図形	36.5	39.2	2.7
4	1	座標の意味の理解	知識理解	数量関係	85.8	89.4	3.6
	2	事象の中の比例関係	知識理解	数量関係	49.1	51.9	2.8
	3	反比例の関係を表す式	知識理解	数量関係	74.9	78.1	3.2
	4	比例のグラフの式	表現処理	数量関係	39.2	44.1	4.9
	5	比例の表と式	表現処理	数量関係	50.6	56.3	5.7
5	1	1 数量の関係を式で表現	考え方	数と式	44.7	52.0	7.3
		2 数量の関係を式で表現	表現処理	数と式	32.2	38.3	6.1
	2	1 具体的事象から一元一次方程式を解く	考え方	数と式	72.9	78.6	5.7
		2 具体的事象から一元一次方程式を解く	表現処理	数と式	67.9	73.4	5.5
	3	段数と三角形の個数の関係の一般化	考え方	数と式	51.4	60.2	8.8
	4	比例の利用	考え方	数量関係	36.3	40.6	4.3
	5	サイコロの展開図の作図	考え方	図形	86.0	85.9	-0.1

⑤ 領域ごとの考察

ア 数と式

すべての小問で全国平均を上回っている。しかし、昨年度の類似問題との比較においては、実施時期の違いにもよると思われるが、ほとんどの問題で通過率が低くなっており、「数と式」領域における基礎・基本の定着を図る必要がある。

そこで、指導に当たっては、等式の変形については、いろいろな場面で利用されるので、性質を確実に理解させた上で、確認テストや小テストなどを通して、適宜指導していく必要がある。また、指数を含む式の計算のきまりを正確に定着させるためには、演習の機会を増やすことが欠かせない。四則の混合した計算については、どの段階でつまづいているのか把握し、計算順序の約束事を再度確認していくことが大切である。計算は、数学全般にわたって必要なものであり、年間を通して繰り返し練習することで、速く正確に処理する力を定着させたい。その際、途中の式を丁寧に書かせることで、不注意による誤りを防ぐ習慣を身に付けさせることが大切であり、小テストによる実態把握と個別指導の時間を充実させるとともに、継続した指導が重要である。

イ 図形

領域全体で見ると全国平均をやや上回っているが、他の領域と比較するとやや低い結果である。

そこで、指導に当たっては、対称については、日常生活における「ずらす」、「まわす」、「裏返す」などの経験を通して、認識を深めさせ、線対称と点対称の違いを十分に理解させる必要がある。また、作図については、コンパスを使うと何ができるのか、十分に理解を深め活用する力を養成することが大切である。数学用語も確実に身に付けさせる必要がある。さらに、求積問題を通して、公式の正しい理解を図るとともに、立体の展開図にも慣れるように、模型を作ったり、実験したりするなど数学的活動の場を取り入れていく必要がある。

ウ 数量関係

領域全体で見るとほぼ全国平均を上回っているが、比例の問題は低かった。

そこで、指導に当たっては、比例や反比例については、単なる式の暗記ではなく、数量の関係を表、式、グラフなどで表すことで、具体的なイメージをつくり、理解を深めさせることが大切である。また、グラフを多くかき、経験を積ませることによって、式からグラフのおおよその形を推測できるようにしておきたい。また、単に結果を出すだけでなく、その結果は何を根拠にどのような手順で導き出したのか、その過程で既習の知識をどのように生かしたかなど、自分なりの考えを筋道立てて説明したり、結果を導く過程を振り返ったりする活動を充実させる必要がある。

(4) 理科

① 概要

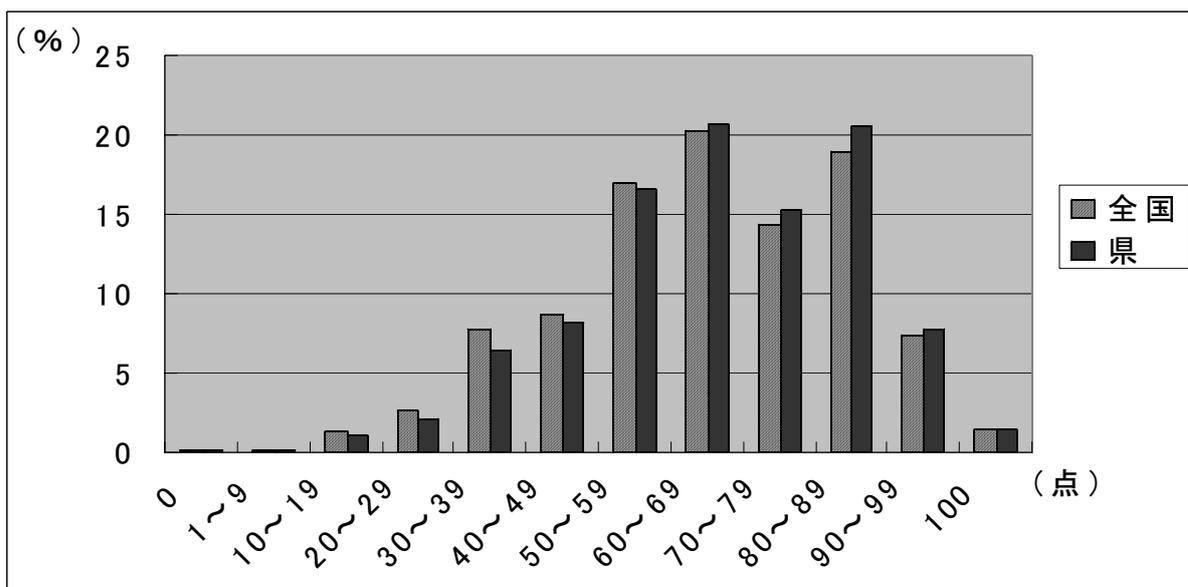
教科全体，各領域ともに全国平均とほぼ同じである。設問別にみると「物体にはたらく力」，「植物の分類」，「地震」の内容では，全国平均よりやや高く，「火山灰の観察方法」，「鉱物の種類」においてはやや低かった。また，理科に関する関心・意欲・態度は全国平均よりもやや高かった。

今後は，特に「大地の変化」の領域で，大地の活動の様子や身近な地形，地層，岩石などの観察を通して，地表に見られる様々な事物・現象を大地の変化と関連付けてみる見方や考え方を育成することが大切である。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	65.0	66.5	1.5
	基礎	65.9	67.3	1.4
	応用	63.0	64.7	1.7
観 点 別	科学的な思考	57.7	59.4	1.7
	観察・実験の技能・表現	65.9	66.8	0.9
	自然事象についての知識・理解	68.6	70.5	1.9
領 域 別	身近な物理現象	62.6	64.4	1.8
	身の回りの物質	67.0	68.2	1.2
	植物の生活と種類	62.9	65.0	2.1
	大地の変化	68.4	69.0	0.6

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	実像と虚像	知識・理解	身近な物理現象	59.9	62.2	2.3
	2	凸レンズの距離と実像の大きさ	技能・表現	身近な物理現象	57.9	59.4	1.5
	3	焦点距離	科学的な思考	身近な物理現象	23.7	23.7	0.0
2	1	物体にはたらく力	知識・理解	身近な物理現象	63.8	68.2	4.4
	2	物体にはたらく力	技能・表現	身近な物理現象	93.0	93.8	0.8
	3	物体にはたらく力	科学的な思考	身近な物理現象	77.4	79.4	2.0
3	1	植物の分類	知識・理解	植物の生活と種類	65.7	68.7	3.0
	2	植物の分類	科学的な思考	植物の生活と種類	87.5	89.7	2.2
	3	植物の分類	科学的な思考	植物の生活と種類	53.1	55.1	2.0
4	1	蒸散のはたらき	知識・理解	植物の生活と種類	64.5	67.0	2.5
	2	蒸散と気孔	知識・理解	植物の生活と種類	68.6	70.1	1.5
	3	葉と蒸散の関係	科学的な思考	植物の生活と種類	49.6	51.3	1.7
	4	顕微鏡の使い方	技能・表現	植物の生活と種類	59.4	59.6	0.2
	5	顕微鏡の使い方	技能・表現	植物の生活と種類	55.3	58.5	3.2
5	1	気体の発生	知識・理解	身の回りの物質	68.0	69.6	1.6
	2	気体の発生	技能・表現	身の回りの物質	82.9	83.5	0.6
	3	気体の発生	科学的な思考	身の回りの物質	55.2	57.3	2.1
6	1	水の状態変化	知識・理解	身の回りの物質	63.5	63.5	0.0
	2	水の状態変化	技能・表現	身の回りの物質	59.5	59.6	0.1
	3	沸騰石のはたらき	技能・表現	身の回りの物質	72.7	75.5	2.8
7	1	地層の様子	知識・理解	大地の変化	80.0	81.5	1.5
	2	堆積の順番	技能・表現	大地の変化	60.8	62.2	1.4
8	1	火山灰の観察方法	技能・表現	大地の変化	31.7	29.9	-1.8
	2	鉱物の種類	知識・理解	大地の変化	69.1	67.5	-1.6
9	1	地震	知識・理解	大地の変化	83.6	86.9	3.3
	2	震源	技能・表現	大地の変化	85.2	85.9	0.7

⑤ 領域ごとの考察

ア 身近な物理現象

ほとんどの小問で全国平均をやや上回っている。また、「物体にはたらく力」の単元では、力のつり合いの条件やつり合う力の図示に関して、昨年度と同様に通過率が高く、基礎・基本の定着が図られている。しかし、「凸レンズによる像のでき方」や「焦点距離」に関する小問では、全国平均と同程度であるが、昨年度の類似問題と比較して、通過率が低い状況である。

そこで、指導に当たっては、凸レンズのはたらきについての指導を徹底する必要がある。特に、実験を通して、物体と凸レンズの距離を変え、実像と虚像ができる条件を探らせ、実像の位置や大きさについての規則性を定性的に見いださせる授業の工夫が望まれる。

イ 植物の生活と種類

4領域の中で、最も定着が図られていた領域であり、すべての小問で全国平均を上回っている。また、「植物の分類」と「顕微鏡の使い方」の一部の単元では、全国平均を3ポイント程度上回っており、基礎・基本の定着が図られている。しかし、「葉と蒸散の関係」に関する科学的な思考を問う小問では、全国平均と同程度ではあるが、50%程度の通過率で理解が不十分な状況である。

そこで、指導に当たっては、葉が多量な水を蒸散する器官であることを、葉の断面や気孔などの観察や蒸散に関する実験の結果などと関連付けて理解させるとともに、葉以外の部分からの蒸散量についても触れることが必要である。

ウ 身の回りの物質

ほとんどの小問で全国平均をやや上回っている。また、「気体の発生」や「沸騰石のはたらき」等の記述式の小問では、全国平均を2ポイント程度上回っており、ある程度定着が図られている。しかし、「水の状態変化」の単元は、全国平均と同程度ではあるが、60%程度の通過率であり、理解が不十分な状況である。

そこで、指導に当たっては、水の特徴を理解させる授業を充実させる必要がある。特に、実験を通して、加えた熱はどのように影響するか、また、加熱を続けた水の状態変化について、グラフを読み取る力や実験における注意事項とその理由等もあわせて指導することが重要である。

エ 大地の変化

領域全体で見るとほぼ全国平均と同じである。「地震」の単元では、昨年度よりも通過率が上回っており、基礎・基本の定着が図られている。しかし、「火山灰の観察方法」、「鉱物の種類」においては全国平均よりやや低かった。

そこで、指導に当たっては、火山灰などの噴出物は、性質の異なる何種類かの粒からなっていることを、実際に比較・観察することによって理解させることが必要である。特に、観察における技能の指導に加えて、注意事項とその理由等についてもあわせて指導することが大切である。

(5) 英語

① 概要

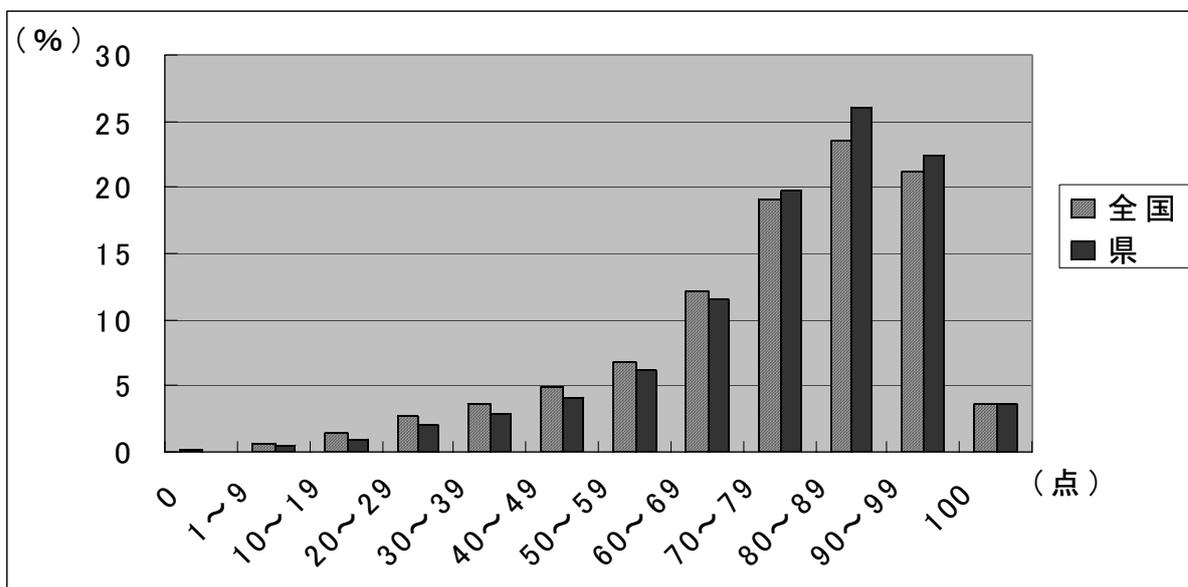
教科全体、各領域とも全国平均よりやや高い。教科に関する関心・意欲・態度についても、各設問に「とても」と回答している割合が全国平均よりやや高く、教科全体として概ね満足できる結果である。

「英語的表現」、「表現の知識理解」及び「会話表現・状況判断」に関する設問において、全国平均をやや下回っているため、今後は、英語を話したり書いたりする活動の充実が一層求められる。

② 平均点

		全国	宮崎県	全国との差
全 体	教科全体	73.5	75.7	2.2
	基礎	82.4	84.6	2.2
	応用	64.0	66.3	2.3
観 点 別	理解	83.4	85.6	2.2
	表現	63.0	65.2	2.2
	言語文化理解	75.6	79.5	3.9
領 域 別	リスニング	84.5	86.9	2.4
	読解問題	82.8	84.7	1.9
	文法・表現・英作文	65.8	68.2	2.4

③ 得点分布グラフ



④ 小問ごとの出題内容と通過率

大	小	出題内容	観点別	領域別	全国	県	全国との差
1	1	英文のリスニング	理解	リスニング	84.2	86.4	2.2
	2	英文のリスニング	理解	リスニング	92.2	92.7	0.5
	3	英文のリスニング	理解	リスニング	76.5	77.9	1.4
2	1	対話のリスニング	理解	リスニング	82.1	86.5	4.4
	2	対話のリスニング	理解	リスニング	87.5	91.2	3.7
	3	対話のリスニング	理解	文法・表現・英作文	84.1	88.0	3.9
3	1	英語的表現	表現	文法・表現・英作文	47.1	47.6	0.5
	2	英語的表現	表現	文法・表現・英作文	25.8	31.4	5.6
	3	英語的表現	表現	文法・表現・英作文	17.1	13.9	-3.2
4	1	表現の知識理解	表現	文法・表現・英作文	92.2	94.3	2.1
	2	表現の知識理解	表現	文法・表現・英作文	81.1	77.1	-4.0
	3	表現の知識理解	表現	文法・表現・英作文	80.7	82.6	1.9
5	1	会話表現・状況判断	表現	文法・表現・英作文	81.5	86.7	5.2
	2	会話表現・状況判断	表現	文法・表現・英作文	65.9	72.4	6.5
	3	会話表現・状況判断	表現	文法・表現・英作文	44.6	45.6	1.0
	4	会話表現・状況判断	表現	文法・表現・英作文	29.3	28.6	-0.7
6	1	並べ替え英作文	表現 言語文化理解	文法・表現・英作文	68.0	72.4	4.4
	2	並べ替え英作文	表現 言語文化理解	文法・表現・英作文	91.6	94.2	2.6
	3	並べ替え英作文	表現 言語文化理解	文法・表現・英作文	88.1	89.9	1.8
	4	並べ替え英作文	表現 言語文化理解	文法・表現・英作文	68.7	70.6	1.9
	5	並べ替え英作文	表現 言語文化理解	文法・表現・英作文	61.6	70.6	9.0
7	1	会話の状況把握	理解	読解問題	85.8	87.8	2.0
	(a) 2	会話の内容把握	理解	読解問題 文法・表現・英作文	72.6	75.2	2.6
	(b) 2	会話の内容把握	理解	読解問題 文法・表現・英作文	84.1	86.2	2.1
	3	会話の内容一致	理解	読解問題	92.2	93.7	1.5
8	(a) 1	英文の内容理解	理解	読解問題	89.4	91.1	1.7
	(b) 1	英文の内容理解	理解	読解問題	79.9	81.3	1.4
	(c) 1	英文の内容理解	理解	読解問題	59.6	61.5	1.9
	(a) 2	英文の内容把握	理解	読解問題	88.5	90.5	2.0
	(b) 2	英文の内容把握	理解	読解問題	88.5	90.7	2.2
	(c) 2	英文の内容把握	理解	読解問題	86.9	89.1	2.2

⑤ 領域ごとの考察

ア リスニング

すべての小問で全国平均を上回っている。また、昨年度の類似問題との比較においても、上回っている。特に、対話のリスニングに関する通過率が全国の通過率に比べて高い。

そこで、指導に当たっては、今後も、生徒が英語を聞いたり、対話をしたりする場面を設定していくことを継続して取り入れていくことが大切である。また、対話や英文の内容を理解させる指導を行うときに、対話や英文における内容をつかむために、重要な語に気付かせる指導の工夫が必要である。その際、聞き取りの視点を示すことで、視点を意識した聞き取りの活動が行えるようにするとともに、大切な内容を聞き取ることに、日頃から慣れさせていくことが大切である。

イ 読解問題

すべての小問で全国平均を上回っている。また、昨年度の類似問題との比較においても、通過率が上回っている。

そこで、指導に当たっては、教科書で用いられている会話文や英文を指導する際、訳読中心の指導とならないように留意するとともに、内容理解に関する活動を取り入れていくことが大切である。例えば、本文の内容に関する英問英答の活動や True or False の活動を継続的に行っていくことが望まれる。

ウ 文法・表現・英作文

ほとんどの小問で全国平均を上回っている。しかし、英語的表現、表現の知識理解及び会話表現・状況判断に関する問題の一部で全国平均をやや下回っている。

そこで、指導に当たっては、語を正確に書くことができるように、日頃の授業や家庭学習の内容の提示を工夫することが大切である。また、会話でよく用いられる慣用的な表現を定着させるために、言語活動を行う際、既習の表現を意図的に取り入れて慣れ親しませていく必要がある。さらに、状況を的確に判断した会話が行えるようにするために、機械的な会話の練習だけに終わらず、相手の発話を聞いて自分の考えなどを伝える活動が行えるように、指導を工夫することが大切である。

Ⅲ 意識調査分析結果

受検者全体を成績で上位3分の1(A層)、中位3分の1、下位3分の1(C層)に分け、各層の中で肯定的に回答した児童生徒の割合を算出しました。A層-C層は、その割合の差の数値であり、数値が大きいほど学力との相関が強いとみることができます。

生活体験	小5				中2			
	全国	宮崎	全国との差	A層-C層	全国	宮崎	全国との差	A層-C層
1 友だちと外で遊ぶ。	88.2	87.5	-0.7	-2.6	75.8	78.4	2.6	-11.7
2 テレビを見たり、マンガを読んだりする。	88.7	88.2	-0.5	2.1	94.7	94.4	-0.3	-0.6
3 テレビゲームなどのゲームをする。	61.2	56.9	-4.3	-8.8	52.1	50.1	-2.0	-7.1
4 パソコンやインターネットをする。	40.2	38.6	-1.6	14.2	49.9	47.1	-2.8	18.4
5 本や新聞を読む。	62.7	64.0	1.3	19.4	59.7	60.6	0.9	15.3
6 ピアノや英会話などの習い事に通う。	43.8	42.3	-1.5	23.6	27.7	24.9	-2.8	19.9
7 水泳や体操、サッカーなどのスポーツ教室に通う。	55.4	55.4	0.0	7.3	21.9	20.3	-1.6	-2.4
8 学習塾に通う。	24.5	19.6	-4.8	2.7	37.3	30.4	-6.9	11.9
9 自分が住んでいる地域での活動(地域の清掃など)に参加する。	55.8	61.5	5.7	10.8	31.5	33.5	2.0	-3.6
10 家のお手伝いをする。	80.6	83.7	3.1	4.1	70.3	72.9	2.6	-0.2
11 美術館に行ったり、劇や音楽などを生で見たり聞いたりする。	24.8	27.2	2.4	4.4	17.2	18.1	0.9	2.3
12 放課後や土曜日などの学校行事に参加している。	35.4	35.5	0.2	14.0	41.9	40.4	-1.5	9.1
13 家族や担任の先生以外に、悩み事などを相談できる大人がいる。	40.4	38.8	-1.6	0.4	34.6	35.7	1.1	-4.5
14 自分の考えや気持を理解してくれる友だちがいる。	81.4	80.6	-0.8	8.9	84.6	84.4	-0.2	6.6
15 家族は自分のことを気にかけてくれていると思う。	85.7	86.2	0.5	10.9	83.7	84.3	0.6	10.2
16 今まで教えてもらった学校の先生は、自分のことを認めてくれていると思う。	76.9	78.1	1.2	15.4	68.5	68.1	-0.4	15.1

- ・生活体験の項目については、ほぼ全国平均の割合と同じ程度であった。
- ・パソコンやインターネットをすること(4)、本や新聞を読むこと(5)と学力との間には相関が認められる。
- ・学習塾と学力との関係については、中学校段階では相関が強くなってきている。
- ・自分を理解してくれる友だちや気にかけてくれる家族、認めてくれる教師の存在(14、15、16)と学力との間には相関が認められる。

学びに向かう力	小5				中2			
	全国	宮崎	全国との差	A層-C層	全国	宮崎	全国との差	A層-C層
1 ふだんから「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じることがある。	67.6	68.4	0.8	18.0	69.4	69.7	0.3	14.4
2 本やドラマなどを見て、人の生き方に感動することがある。	62.8	54.9	-7.9	16.4	71.7	75.3	3.6	11.4
3 学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。	76.4	78.8	2.4	16.4	71.6	79.3	7.7	11.7
4 学習して身につけた知識は、いずれ仕事や生活の中で役に立つと思う。	87.8	87.5	-0.3	16.0	75.7	80.4	4.7	6.5
5 学習して、わかったりできるようになったりすることが、増えていくことはうれしい。	89.1	89.2	0.1	9.0	84.9	87.7	2.8	7.7
6 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う。	92.6	93.2	0.6	7.3	93.5	94.9	1.4	6.1
7 努力をすれば、自分もたいていのことはできると思う。	89.7	91.1	1.4	10.1	87.4	89.7	2.3	2.8
8 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある。	64.1	66.3	2.2	14.5	52.8	57.2	4.4	12.2
9 ものごとをやりとげた時のよろこびを、味わったことがある。	84.4	84.9	0.5	14.4	86.2	87.1	0.9	9.7
10 成績が悪かったときは、自分の努力が足りなかったからだと思う。	89.7	90.5	0.7	8.0	94.2	94.8	0.6	3.9
11 同じまちがいをくり返さないように気をつけている。	87.1	88.7	1.6	13.2	78.9	83.1	4.2	15.6

- ・学びに向かう力については、ほぼ全国平均の割合と同じ程度であった。また、本やドラマで感動する(2)と回答した割合が中学校段階では増加している。
- ・不思議に感じる(1)、感動する(2)、楽しいと思う(3)、学習の知識が仕事や生活に役立つと思うこと(4)と学力との間には相関が認められる。
- ・自分に自信をもっていたり、成就感を味わったりした経験(7、8、9)と学力との間には相関が認められ、特に小学校段階で強い。

自ら学ぶ力		小5				中2			
		全国	宮崎	全国との差	A層-C層	全国	宮崎	全国との差	A層-C層
1	黒板に書かれなくても、大事なことはノートに書きとめている。	53.9	56.0	2.1	1.7	52.1	56.6	4.5	12.8
2	先生や友だちから聞いた学習の方法を参考にしている。	80.7	81.6	1.0	9.6	65.8	70.2	4.4	4.8
3	テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している。	75.9	81.1	5.3	11.5	60.3	67.6	7.3	23.8
4	新しく習ったことは、何度もくり返して練習している。	58.5	73.8	15.3	17.1	47.6	63.4	15.8	19.7
5	授業で習ったことを、自分なりにわかりやすくまとめている。	60.7	65.7	5.0	18.5	55.6	61.4	5.8	20.4
6	授業で習ったことはそのまま覚えるのではなく、その理由や考え方もいっしょに理解しようとしている。	53.0	55.9	2.9	21.9	51.0	56.5	5.5	30.5
7	授業で習ったことをふだんの生活と結びつけて考えている。	54.5	60.0	5.6	12.8	32.3	38.7	6.4	6.8
8	教科の内容をどれくらい理解できているかわかっている。	65.6	69.6	4.1	25.1	61.2	65.6	4.4	27.1
9	その日のめあてを決めて、授業や家で学習に取り組んでいる。	47.5	52.9	5.4	3.3	28.6	31.3	2.7	3.4
10	自分で学習の計画を立てている。	48.6	57.0	8.4	10.9	36.0	40.1	4.1	15.4
11	宿題をきちんとやっている。	91.0	90.4	-0.6	12.4	83.1	86.2	3.1	16.0
12	授業で習ったことは、その日のうちに復習している。	49.5	67.6	18.1	15.8	42.6	56.8	14.2	13.0
13	興味を持ったことを、自分から進んで学習している。	69.4	74.0	4.6	12.7	60.2	63.2	3.0	6.0

- ・ 自ら学ぶ力のほとんどの項目については、小・中学校とも全国平均の割合より高い。
- ・ 学んだことの学習をやり直したり(3)、くり返したり(4)、わかりやすくまとめたり(5)、理由や考え方まで理解する(6)等の学習と学力との間には強い相関が認められる。
- ・ まちがえたところをやり直したり(3)、学習内容を暗記するのではなく、理由や考え方も含めて理解していくこと(6)と学力との関係については、相関が強くなっていることが認められる。特に、中学校段階は強い。
- ・ 教科の内容をどれくらい理解しているかわかっていること(8)と学力との間には強い相関が認められる。
- ・ 学習計画を立てたり(10)、宿題(11)や授業の復習をしていくこと(12)と学力との間には相関が認められる。

学ぶ姿勢		小5				中2			
		全国	宮崎	全国との差	A層-C層	全国	宮崎	全国との差	A層-C層
1	目標に向けて、ふだんからコツコツ学習している。	58.0	68.5	10.5	14.8	39.9	49.7	9.8	17.0
2	わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。	70.3	73.4	3.1	17.1	54.2	60.5	6.3	31.4
3	学習を始めたら、他のことに気をとられないで、集中している。	59.3	61.7	2.3	6.7	39.8	43.6	3.8	10.6
4	勘違いや思い込みがないか、しっかり見直しをしている。	63.6	66.5	2.9	13.8	47.5	53.5	6.0	17.1
5	正しい姿勢で学習している。	56.4	59.3	2.9	9.9	44.3	47.0	2.7	3.7
6	必要なものをきちんとそろえてから、学習を始めている。	80.2	82.4	2.2	11.6	76.6	80.2	3.6	9.9
7	人の話は最後まで、きちんと聞いている。	78.8	84.3	5.5	10.6	72.8	79.5	6.7	11.1
8	ふだんから、ちこくや忘れ物をしないようにしている。	83.0	82.4	-0.6	15.4	83.6	85.8	2.2	12.2
9	授業を集中して受けている。	78.1	81.9	3.8	16.1	73.6	79.1	5.5	17.6

- ・ 学ぶ姿勢のほとんどの項目については、小・中学校ともに全国平均の割合より高い。
- ・ 学ぶ姿勢と学力の間には強い相関が認められる。

生きる力		小5				中2			
		全国	宮崎	全国との差	A層-C層	全国	宮崎	全国との差	A層-C層
1	調べてわかったことをもとに、考えをまとめることができる。	60.6	63.3	2.7	23.2	54.5	59.5	5.0	32.7
2	筋道を立てて、ものごとを考えることができる。	58.9	62.0	3.0	24.1	53.4	58.2	4.8	27.9
3	自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる。	54.9	58.4	3.5	21.6	42.4	47.0	4.6	21.0
4	調べたことを、コンピュータを使ってまとめたり、発表したりすることができる。	47.5	50.7	3.3	25.1	43.6	48.5	4.9	24.6
5	学校のきまりや規則を守っている。	83.8	86.3	2.6	10.3	82.3	88.1	5.8	10.4
6	テレビのニュースや新聞などで、最近の社会のできごとをよく知っている。	62.0	65.6	3.7	25.7	64.2	68.7	4.5	14.8
7	お年寄りや障害のある人に、進んで手助けをしたことがある。	46.6	51.0	4.4	1.4	43.1	46.6	3.5	-3.3
8	社会で問題になっていることについて、どうすればよいかを考えたことがある。	50.1	53.9	3.8	17.6	45.7	48.6	2.9	16.9
9	近所の人に会ったとき、あいさつをしている。	88.3	90.8	2.5	5.5	85.3	88.6	3.3	2.7
10	自分からやらなければならないことは、責任を持ってやりぬくことができる。	74.6	76.6	2.1	15.7	73.5	76.3	2.8	18.6
11	むずかしいことでも、失敗をおそれないで、取り組んでいる。	67.6	71.1	3.5	13.8	53.2	56.3	3.1	12.4
12	いつも新しいアイデアを考えたり、工夫したりしている。	59.5	62.1	2.7	18.9	46.9	51.6	4.7	12.8
13	自分とちがう意見も尊重している。	59.0	61.6	2.6	26.1	63.0	65.9	2.9	27.5
14	どんな職業や進路が自分に適しているのかを知っている。	52.1	54.3	2.2	6.0	42.4	46.0	3.6	3.4
15	将来かなえてみたい夢がある。	86.4	87.7	1.2	4.8	74.4	75.5	1.1	-2.2

- ・ 生きる力については、すべての項目で全国平均の割合より高く、学力との間にも強い相関が認められる。
- ・ 考えをまとめたり(1)、筋道立てて考えたり(2)、わかりやすく伝えたり(3)、発表したりすること(4)と、学力との間には強い相関が認められる。
- ・ 最近の社会のできごとを知っていたり(6)、社会問題を考えたりする(8)社会的実践力と学力との間には相関が認められる。
- ・ 責任感をもつこと(10)や他の意見を尊重すること(13)と学力との間には相関が認められる。

家庭の指導や活動に関すること		小5				中2			
		全国	宮崎	全国との差	A層-C層	全国	宮崎	全国との差	A層-C層
1	朝食は毎日食べるようにしている。	91.2	92.5	1.2	9.3	89.5	91.9	2.4	9.7
2	朝、自分で起きることができる。	68.8	68.6	-0.1	6.0	71.3	72.3	1.0	-0.8
3	夜は決まった時間に寝ている。	47.6	52.9	5.3	6.9	33.1	37.0	3.9	7.6
4	新聞に書かれていることについて家族と話す。	46.5	41.3	-5.2	7.7	38.8	41.9	3.1	11.1
5	家族から世の中のふしぎな話や感動するような話を聞く。	48.7	41.9	-6.8	9.6	32.5	35.3	2.8	9.0
6	家族といっしょに工作や料理などをする。	66.2	61.8	-4.4	4.5	39.2	42.6	3.4	-1.2
7	夕食は家族といっしょに食べている。	90.6	90.1	-0.5	8.1	86.2	87.0	0.8	6.6
8	家族からたよりにされて、何かの役割をまかされている。	68.3	61.3	-6.9	4.9	45.1	48.8	3.7	2.8
9	習い事やスポーツ、学習などで自分が立てた目標を達成できるように家族が応援してくれる。	72.9	69.4	-3.6	12.2	67.5	71.6	4.1	13.1
10	学校で学習したことが社会に出た時に役立つ話を、家族から聞いたことがある。	59.5	55.5	-4.0	8.0	47.3	51.4	4.1	-2.9
11	将来の夢やこれからの進路について家族と話す。	59.9	54.0	-5.9	8.9	64.7	69.6	4.9	11.5
12	食器の後かたづけなど、自分のことは自分でできるように、言われている。	76.1	73.0	-3.1	5.5	79.0	80.9	1.9	4.3
13	早寝早起きなど、規則正しく生活するように、言われている。	78.8	77.6	-1.2	11.2	71.3	71.9	0.6	9.9
14	人が話しているときはしっかり聞くように、言われている。	82.9	83.6	0.8	3.8	74.5	74.7	0.2	1.4
15	ふだんから計画的に学習するように、言われている。	73.9	70.5	-3.4	5.1	69.4	72.1	2.7	7.6
16	やりはじめたことは途中で投げ出さずに最後までやりとげるように、言われている。	77.5	76.3	-1.3	6.6	70.7	71.9	1.2	1.8
17	よく確かめて、勘違いや思い込みをなくすように、言われている。	70.3	68.4	-1.9	9.2	57.3	57.1	-0.2	7.0
18	朝食は毎日食べるように言われている。	81.8	81.4	-0.3	-1.3	75.9	78.1	2.2	2.1

- ・ 家庭での指導や活動に関しては、小学校段階では全国平均の割合より低い項目が多い。中学校段階ではほとんどの項目が全国平均の割合より高い。
- ・ 朝食を食べること(1)や起床、就寝時間等に関わる規則正しい生活習慣(13)と学力との間にも相関が認められる。
- ・ 家族との会話(4, 5, 11)や家族の応援(9)と学力との間にも相関が認められる。

学校の指導や活動に関すること		小5				中2			
		全国	宮崎	全国との差	A層-C層	全国	宮崎	全国との差	A層-C層
1	学校に行くのが楽しい。	77.1	78.2	1.1	10.8	76.7	77.5	0.8	10.3
2	自分のことは自分でするという習慣を身につけよう。	68.5	69.1	0.6	-0.4	60.6	59.4	-1.2	-8.0
3	見直しや確かめをして、勘違いや思い込みをなくそう。	73.1	73.4	0.3	5.7	66.1	63.9	-2.2	2.7
4	新しいことを学ぶときは、これまでに学んだことを組み合わせて考えてみよう。	59.5	60.4	0.9	4.5	47.7	48.9	1.2	-0.5
5	授業で習ったことをふだんの生活と結びつけて考えてみよう。	55.0	59.0	4.0	1.8	42.7	43.6	0.9	-6.3
6	まちがえた問題や自信のない問題に、くり返し挑戦しよう。	74.2	77.1	2.9	11.7	80.4	80.7	0.3	8.7
7	家庭でも、毎日、時間を決めて学習したり、読書をしたりする習慣をつけよう。	59.9	64.2	4.4	9.0	64.7	63.7	-1.0	10.5
8	掃除やボランティア活動は積極的にしよう。	49.3	57.8	8.5	9.9	47.7	50.9	3.2	9.2
9	おもしろい実験や楽しい教材を使って学習する。	77.5	79.0	1.5	9.3	63.0	65.1	2.1	9.0
10	ゲスト・ティーチャー(地域の人や学校以外の人)などから、勉強や活動についての感想やアドバイスをもらう。	39.9	42.2	2.4	2.5	33.6	36.0	2.4	2.1
11	友だちの悩みについて、みんなで話し合う。	47.0	46.1	-0.9	-5.8	31.1	30.3	-0.8	-13.7
12	友だちの良いところや友だちから学んだことを話し合う。	48.6	51.8	3.1	-0.6	32.0	33.3	1.3	-10.0
13	学習することが、ふだんの生活や自分の将来にどのように役立つかについて話し合う。	56.5	61.3	4.9	5.8	32.7	35.6	2.9	0.1
14	先生から、がんばっている先輩や友だちについての話を聞く。	48.0	50.3	2.3	3.6	51.3	52.0	0.7	3.9
15	ふりかえりテストなどで自分がわからなかったところを確認する。	74.1	78.0	3.9	15.6	65.0	69.7	4.7	19.7
16	学習内容が理解できなかったり、テストでまちがえたりした原因について考える。	65.2	69.3	4.1	18.2	59.2	62.9	3.7	19.5
17	国語	63.2	67.1	3.9	14.4	61.3	62.0	0.7	-1.2
18	社会	50.9	52.5	1.6	14.1	56.6	59.0	2.4	17.0
19	算数・数学	70.4	75.3	4.9	18.6	51.6	57.3	5.7	24.9
20	理科	79.4	78.9	-0.5	9.2	64.5	70.1	5.6	13.2
21	音楽	75.1	76.5	1.4	8.1	67.2	66.9	-0.3	-3.0
22	図画工作・美術	83.5	83.1	-0.4	-1.5	63.4	65.9	2.5	-5.6
23	体育・保健体育	86.4	87.7	1.3	-2.9	76.6	79.0	2.4	-7.9
24	総合的な学習の時間	73.2	77.7	4.5	10.7	63.7	73.1	9.4	-2.2
25	道徳	64.5	69.6	5.1	4.8	53.0	61.1	8.1	-8.7
26	学級活動	76.8	79.9	3.1	8.0	70.1	76.0	5.9	1.6
27	技術・家庭				4.8	69.7	75.1	5.4	-2.9
28	英語					56.8	59.6	2.8	30.5
29	国語	82.9	85.1	2.2	20.6	74.5	75.1	0.6	14.1
30	社会	70.1	73.7	3.6	23.3	59.2	61.6	2.4	24.4
31	算数・数学	81.8	85.1	3.3	21.3	61.0	68.5	7.5	28.9
32	理科	84.4	85.8	1.3	13.0	67.1	73.7	6.6	20.7
33	音楽	82.2	83.3	1.0	9.9	71.2	71.0	-0.2	1.1
34	図画工作・美術	88.1	89.8	1.6	3.7	70.9	73.8	2.9	-3.9
35	体育・保健体育	91.2	93.2	2.0	1.5	79.2	83.0	3.8	-3.4
36	技術・家庭				8.7	69.8	75.3	5.5	2.7
37	英語					58.6	60.7	2.1	38.4

- ・学校の指導や活動に関しては、ほぼ全国平均の割合と同じ程度である。
- ・小・中学校とも、ほとんどの教科で好きという回答の割合が全国平均より高い。また、理解度についても同様である。
- ・他の教科と比べると、小学校の算数(19)、中学校の数学(19)及び英語(28)においては、好き嫌いの情意面と学力との間には強い相関が認められる。
- ・テストの活用(15、16)と学力との間にも相関が認められる。

IV 優秀実践校及び学力向上サポーター配置校の選定結果

1 優秀実践校

(1) 目的

- 優秀実践校を選定し顕彰することで、当該校の学力向上に対する取組の一層の充実を図る。
- 優秀実践校の取組を紹介することで、県全体の学力向上に資する。

(2) 選定学校数

小学校 20 校，中学校 20 校

(3) 選定の基準

学力調査及び意識調査の結果を基に，以下に示す選定の基準により，総合的に審査する。

- ① 学力調査の結果が優れていること。
- ② 意識調査の結果が良好であること。
- ③ 学校規模を考慮すること。

(小・中学校ともに，小規模校 6 校，中・大規模校 14 校)

(4) 選定学校

【小学校】

《小規模校》

日向市立幸脇小学校
日向市立美々津小学校
南郷村立鬼神野小学校
椎葉村立尾向小学校
日之影町立高巢野小学校
日之影町立日之影小学校

《中・大規模校》

宮崎市立大淀小学校
宮崎市立大宮小学校
宮崎市立江平小学校
宮崎市立住吉小学校
宮崎市立本郷小学校
宮崎市立小松台小学校
宮崎市立生目台東小学校
宮崎市立学園木花台小学校
宮崎市立生目台西小学校
都城市立大王小学校
三股町立勝岡小学校
小林市立南小学校
川南町立通山小学校
延岡市立旭小学校

【中学校】

《小規模校》

南郷町立榎原中学校
都城市立西岳中学校
高城町立四家中学校
高崎町立笛水中学校
延岡市立熊野江中学校
北浦町立三川内中学校

《中・大規模校》

宮崎市立宮崎東中学校
宮崎市立大宮中学校
宮崎市立木花中学校
宮崎市立宮崎北中学校
宮崎市立住吉中学校
宮崎市立生目中学校
宮崎市立大塚中学校
宮崎市立東大宮中学校
宮崎市立生目台中学校
清武町立加納中学校
国富町立本庄中学校
山田町立山田中学校
高崎町立高崎中学校
高鍋町立高鍋西中学校

2 学力向上サポーター配置校

(1) 目的

学力向上サポーターを配置することで、配置校の指導方法の工夫・改善及び児童生徒の意識の高揚を図る。

(2) 選定学校数

小学校10校，中学校10校

(3) 選定の基準

- ① 学力調査及び意識調査の結果，各学校提出の改善計画書を基に，総合的に審査する。
- ② 各学校の改善計画書において，学力向上サポーターの活用計画が具体的であり効果が期待できる学校を対象とする。
- ③ 実践的な研究成果が普及するよう地域のバランスも考慮する。

(4) 選定学校

【小学校】

宮崎市立宮崎小学校
宮崎市立住吉南小学校
清武町立大久保小学校
南郷町立南郷小学校
都城市立東小学校
高崎町立高崎小学校
延岡市立南小学校
延岡市立伊形小学校
日向市立日知屋小学校
高千穂町立高千穂小学校

【中学校】

宮崎市立本郷中学校
佐土原町立佐土原中学校
串間市立福島中学校
都城市立庄内中学校
小林市立西小林中学校
えびの市立加久藤中学校
西都市立妻中学校
高鍋町立高鍋東中学校
延岡市立岡富中学校
日向市立富島中学校